

注3

大学番号：私107

[平成30年度設置]

計画の区分： 研究科の設置

注1

届出

東洋大学大学院 国際学研究科

注2

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人東洋大学
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 教務部大学院教務課

職名・氏名 次長兼課長・田中 ^{タナカ} ^{アキノリ} 明紀

電話番号 03-3945-8587

（夜間） 03-3945-8587

F A X 03-3945-7657

e-mail mldaig@toyo.jp

（注）1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例） 〇〇大学 △△学部 □□学科

（旧名称：◇◇学科（平成◇◇年度より学科名称変更））

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例）

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻（修士課程）」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科（通信教育課程）」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について（依頼）」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

国際学研究科

＜国際地域学専攻＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	8
3. 施設・設備の整備状況、経費	18
4. 既設大学等の状況	20
5. 教員組織の状況	27
6. 附帯事項等に対する履行状況等	40
7. その他全般的事項	41

添付資料

- ① 建築等設置計画変更書
- ② 東洋大学高等教育推進センター規程

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東洋大学

(2) 大 学 名

東洋大学大学院

(3) 調査対象大学等の位置

〒112-8606
東京都文京区白山5番地28番20

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(フクカワ シンジ) 福川 伸次 (平成24年12月)	(アンザイ タカシ) 安齋 隆 (平成30年12月)	前理事長の任期満了のため(元) 変更年月日：平成30年12月7日
学 長	(タケムラ マキオ) 竹村 牧男 (平成21年9月)		
研究科長	(オカムラ トシユキ) 岡村 敏之 (平成30年4月)		
専攻長	(スギタ エリ) 杉田 映理 (平成30年4月)	(オカモト イクコ) 岡本 郁子 (平成30年4月)	他大学への移籍のため (30)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際学研究科 国際地域学専攻 博士前期課程 修士(国際地域学)	経済学関係	2年	15人	—年次	30人	基礎となる学部等 国際学部 国際地域学科

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前的人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度までの 平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員							15人 一人		一人 一人		0.63倍	一倍	
(―) [―]							(―) [―]						
志願者数							16 (―) [9]	5 (―) [5]	8 (―) [3]	― (―) [―]			
受験者数							14 (―) [8]	5 (―) [5]	8 (―) [3]	― (―) [―]			
合格者数							10 (―) [5]	5 (―) [5]	4 (―) [0]	― (―) [―]			
B 入学者数							10 (―) [5]	5 (―) [5]	4 (―) [0]	― (―) [―]			
入学定員超過率 B/A							1.00		0.26				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年		平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		備 考					
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期						
1 年 次								10	5	4	5						
2 年 次																	
3 年 次																	
4 年 次																	
計																	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	人	人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	— 人	— 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	15 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	19 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
- (記入項目例) ・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

平成27年度の退学者数(a)
平成27年度の在学者数(b)

=	—	=	#VALUE!	%
	—			

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【平成29年度】

平成29年度の退学者数(a)
平成29年度の在学者数(b)

=	—	=	#VALUE!	%
	—			

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{19} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部等の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
国際学研究科 国際地域学専攻 博士後期課程 博士(国際地域学)	経済学関係	3年	5人	—	15人	基礎となる学部等 国際学部 国際地域学科 国際学研究科 博士前期課程

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員 超 過 率	開設年度から 報告年度まで の平均入学定 員超過率	備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員							5人 一人		5人 一人		0.60倍	一倍	
(―)							(―)						
[―]							[―]						
志願者数							2 (―) [2]	2 (―) [0]	4 (―) [2]	― (―) []			
受験者数							2 (―) [2]	2 (―) [0]	4 (―) [2]	― (―) []			
合格者数							2 (―) [2]	2 (―) [0]	2 (―) [1]	― (―) []	0.40		
B 入学者数							2 (―) [2]	2 (―) [0]	2 (―) [1]	― (―) []			
入学定員超過率 B/A							0.80						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ [] 内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

学 年	対象年度	平成 2 7 年度		平成 2 8 年度		平成 2 9 年度		平成 3 0 年度		令和元年度		備 考
		春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年 次								2	2	2	2	
								[2]	[0]	[1]	[0]	
2 年 次										2 [2] (—)	— [] ()	
3 年 次												
4 年 次												
計			4 [2] (—)	6 [3] (—)								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
平成27年度	— 人	— 人	平成27年度	人	人	
平成28年度	— 人	— 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
平成29年度	— 人	— 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
平成30年度	4 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
令和元年度	6 人	0 人	平成27年度	人	人	
			平成28年度	人	人	
			平成29年度	人	人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
合 計		0 人		0 人	0 人	

(注)・ 数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
 (記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成27年度】

平成27年度の退学者数(a)
平成27年度の在学者数(b) = $\frac{\quad}{\quad}$ = #VALUE! %

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\text{\#VALUE!}} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{\text{---}}{\text{---}} = \boxed{\#VALUE!} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{4} = \boxed{0} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{6} = \boxed{0} \%$$

(注)・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

＜国際学研究科 国際地域学専攻（博士前期課程）＞

（1）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
リサーチスキル科目	調査手法演習A	1・2前後		2		2					
	調査手法演習B	1・2前後		2		2	1				
	アカデミック・リーディング	1・2前		2		1					
	Japan Studies	1・2後		2		2	1				
	小計(4科目)	－		8		7	2	0	0	0	0
国際学分野科目	国際経済学特論	1・2前		2			1				
	国際関係学特論	1・2前		2			1				
	国際政治学特論	1・2前		2		1					
	国際教育開発特論	1・2後		2		1					
	比較文化特論A	1・2後		2				1			
	比較文化特論B	1・2前		2				1			
	ボーダーレスな社会とインターネット技術	1・2後		2		1					
	小計(7科目)	－		14		3	2	1	0	0	0
地域開発分野科目	開発経済学特論	1・2後		2			1				
	開発人類学特論	1・2前		2		1					
	地域社会学特論	1・2後		2		1					
	福祉社会特論	1・2後		2		1					
	コミュニティ開発特論	1・2前		2		1					
	農村・農業開発特論	1・2後		2		1					
	経済地理学特論	1・2後		2		1					
	都市地理学特論	1・2前		2		1					
	都市・地域計画特論	1・2後		2			1				
	住宅政策特論	1・2後		2		1					
	地球環境特論	1・2後		2		1					
	国際環境衛生特論	1・2前		2		1					
	水資源・水環境学特論	1・2後		2		1					
	都市交通計画特論	1・2前		2		1					

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
リサーチスキル科目	調査手法演習A	1・2前後		2		2					
	調査手法演習B	1・2前後		2		3	1				
	アカデミック・リーディング	1・2前		2		1					
	Japan Studies	1・2後		2		2	1				
	小計(4科目)	－		8		8	2	0	0	0	0
国際学分野科目	国際経済学特論	1・2後		2							1
	国際関係学特論	1・2前		2			1				
	国際政治学特論 (未開講)	1・2前		2		1					
	国際教育開発特論 (未開講)	1・2前		2		1					
	比較文化特論A	1・2後		2			1				
	比較文化特論B (未開講)	1・2前		2			1				
	ボーダーレスな社会とインターネット技術 (未開講)	1・2前		2		1					
	小計(7科目)	－		14		3	2	0	0	0	1
地域開発分野科目	開発経済学特論	1・2前		2							1
	開発人類学特論	1・2前		2			1				
	地域社会学特論	1・2前		2		1					
	福祉社会特論	1・2後		2		1					
	コミュニティ開発特論	1・2前		2		1					
	農村・農業開発特論	1・2後		2		1					
	経済地理学特論	1・2前		2		1					
	都市地理学特論	1・2後		2			1				
	都市・地域計画特論	1・2後		2				1			
	住宅政策特論	1・2後		2		1					
	地球環境特論	1・2前		2		1					
	国際環境衛生特論	1・2前		2		1					
	水資源・水環境学特論	1・2後		2		1					
	都市交通計画特論	1・2後		2		1					
	財政学特論	1・2後		2		1					

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域 開発 分野 科目	災害・危機管理特 論	1・2 前		2		1					
	空間計画特論	1・2 後		2		1					
	空間計画演習	1・2 前		2		1	1				
	国際地域応用学特 論	1・2 前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅰ	1前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅱ	1前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅲ	2前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅳ	2前後		2		12	3				
	小計(22科目)	—		44		12	3	0	0	0	0
研究 指 導	国際地域学特殊研 究	1・2 前後	—			12	3				
	国際地域学研究指 導	1・2 前後	2			12	3				
	小計(2科目)	—				12	3	0	0	0	0
合計(35科目)		—	2	66	0	16	3	1	0	0	0
卒業要件及び履修方法											
本課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ「修士学位論文」の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。 ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 リサーチスキル科目から3科目6単位以上修得し、かつ修了予定直前のセメスタを含め2回以上国際地域学特殊研究を修得すること。 また、特定の課題についての研究の成果(特定課題研究論文)の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。その場合の修了に必要な単位数は32単位以上とする。											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域 開発 分野 科目	災害・危機管理特 論	1・2 前		2		1					
	空間計画特論	1・2 後		2		1					
	空間計画演習	1・2 前		2		1	1				
	国際地域応用学特 論	1・2 前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅰ	1前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅱ(未開講)	1前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅲ	2前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅳ(未開講)	2前後		2		12	3				
	小計(23科目)	—		46		12	3	0	0	0	1
研究 指 導	国際地域学特殊研 究	1・2 前後	—			13	4				
	国際地域学研究指 導	1・2 前後	2			13	4				
	小計(2科目)	—				13	4	0	0	0	0
合計(36科目)		—	2	68	0	16	4	0	0	0	2
卒業要件及び履修方法											
本課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたうえ、当該研究科の目的に応じ「修士学位論文」の審査および最終試験に合格した者に修士の学位を授与する。 ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。 リサーチスキル科目から3科目6単位以上修得し、かつ修了予定直前のセメスタを含め2回以上国際地域学特殊研究を修得すること。 また、特定の課題についての研究の成果(特定課題研究論文)の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。その場合の修了に必要な単位数は32単位以上とする。											

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
リ サ ー チ ス キ ル 科 目	調査手法演習A	1・2 前後		2		2					
	調査手法演習B	1・2 前後		2		3	1				
	アカデミック・リー ディング	1・2 前		2		1					
	Japan Studies	1・2 後		2		2	1				
	小計(4科目)	－		8		8	2	0	0	0	
国 際 学 分 野 科 目	国際経済学特論	1・2 後		2							1
	国際関係学特論	1・2 前		2			1				
	国際政治学特論 (未開講)	1・2 前		2		1					
	国際教育開発特論 (未開講)	1・2 前		2		1					
	比較文化特論A	1・2 後		2			1				
	比較文化特論B (未開講)	1・2 前		2			1				
	ボーダーレスな社会 とインターネット技術 (未開講)	1・2 後		2		1					
小計(7科目)	－		14		3	2	0	0	0	1	
地 域 開 発 分 野 科 目	開発経済学特論	1・2 前		2							1
	開発人類学特論	1・2 後		2			1				
	地域社会学特論	1・2 後		2		1					
	福祉社会特論	1・2 前後		2		1					
	コミュニティ開発特 論	1・2 前		2		1					1
	農村・農業開発特 論	1・2 前		2		1					
	経済地理学特論	1・2 前		2		1					
	都市地理学特論	1・2 後		2		1					
	都市・地域計画特 論	1・2 後		2			1				
	住宅政策特論	1・2 後		2		1					
	地球環境特論	1・2 前		2		1					
	国際環境衛生特論	1・2 前		2		1					
	水資源・水環境学 特論	1・2 後		2		1					
	都市交通計画特論	1・2 後		2		1					
	財政学特論	1・2 前		2		1					
	災害・危機管理特 論	1・2 前		2		1					
	空間計画特論	1・2 後		2		1					

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
地域 開 発 分 野 科 目	空間計画演習	1・2 前		2		1	1				
	国際地域応用学特 論	1・2 前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅰ	1前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅱ	1前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅲ(未開講)	2前後		2		12	3				
	国際地域応用学演 習Ⅳ(未開講)	2前後		2		12	3				
	小計(23科目)	—		46		12	3	0	0	0	2
研究 指 導	国際地域学特殊研 究	1・2 前後	—			13	3				
	国際地域学研究指 導	1・2 前後	2			13	3				
	小計(2科目)	—				13	3	0	0	0	
合計(36科目)		—	2	68	0	16	4	0	0	0	3
卒業要件及び履修方法											
本課程に2年以上在学し、30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けたう え、当該研究科の目的に応じ「修士学位論文」の審査および最終試験に合格した 者に修士の学位を授与する。 ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学す れば足りるものとする。 リサーチスキル科目から3科目6単位以上修得し、かつ修了予定直前のセメスタを 含め2回以上国際地域学特殊研究を修得すること。 また、特定の課題についての研究の成果(特定課題研究論文)の審査をもって修 士論文の審査に代えることができる。その場合の修了に必要な単位数は32単位以 上とする。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼担教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育上の効果を向上させるため、新規科目「財政学特論」を開講。
- ・教育上の効果を向上させるため、「調査手法演習B」の専任教員等の配置を変更（教授2名→教授3名）。
- ・担当教員着任辞退により、「国際経済学特論」「開発経済学特論」の専任教員等の配置を変更（准教授1→兼任1）。
- ・担当教員職位昇格により、「比較文化特論A」「比較文化特論B」の専任教員等の配置を変更（講師1→准教授1）。
- ・担当教員の他大学への移籍に伴い後任を採用したことにより、「開発人類学特論」の専任教員等の配置を変更（教授1→准教授1）。
- ・教育上の効果を向上させるため客員教授を新規採用したことにより、「コミュニティ開発特論」の専任教員等の配置を変更（兼任0→兼任1）。
- ・教育上の効果を向上させるため専任教員を新規採用したことにより、「国際地域学特殊研究」「国際地域学研究指導」の専任教員等の配置を変更（教授12→教授13）。
- ・学生の履修計画を考慮し、開講学期を変更（「国際経済学特論」「開発人類学特論」「都市地理学特論」「都市交通計画特論」前→後）。
- ・学生の履修計画を考慮し、開講学期を変更（「国際教育開発特論」「開発経済学特論」「農村・農業開発特論」「経済地理学特論」「地球環境特論」後→前）。
- ・学生の履修計画を考慮し、開講学期を変更（「福祉社会特論」後→前後）。

【令和元年度】

- ・教育上の効果を向上させるため、「国際地域学特殊研究」「国際地域学研究指導」の専任教員等の配置を変更（准教授3名→准教授4名）。
- ・客員教授の退職により、「コミュニティ開発特論」の専任教員等の配置を変更（兼任1→兼任0）。
- ・学生の履修計画を考慮し、開講学期を変更（「ボーダーレスな社会とインターネット技術」「地域社会学特論」後→前）。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
2 科目	33 科目	0 科目	35 科目	2 科目 []	34 科目 [1]	0 科目 []	36 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{35} = \boxed{} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

2 授業科目の概要

＜国際学研究科 国際地域学専攻（博士後期課程）＞

（1）－① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
授業科目	国際地域学特殊研究Ⅰ	1前後	2			12	2	1			
	国際地域学特殊研究Ⅱ	1前後	2			12	2	1			
	国際地域学特殊研究Ⅲ	2前後		2		12	2	1			
	国際地域学特殊研究Ⅳ	2前後		2		12	2	1			
	国際地域学特殊研究Ⅴ	3前後		2		12	2	1			
	国際地域学特殊研究Ⅵ	3前後		2		12	2	1			
	小計(6科目)	—	4	8		12	2	1	0	0	
指導研究	国際地域学研究指導	1・2・3前後	—			12	2				
	小計(1科目)	—				12	2	0	0	0	
	合計(7科目)	—	4	8		12	2	1	0	0	
卒業要件及び履修方法											
本課程に5年(博士前期課程・修士課程を修了したもの)にあつては、当該課程における在学期間を含む)以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。 ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたものについては、大学院に3年(博士前期課程・修士課程を修了したもの)にあつては、当該課程における在学期間を含む)以上在学すれば足りるものとする。 国際地域学特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各セメスタに1科目ずつ順を追って履修しなければならない。											

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
授業科目	国際地域学特殊研究Ⅰ	1前後	2			12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅱ	1前後	2			12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅲ	2前後		2		12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅳ(未開講)	2前後		2		12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅴ(未開講)	3前後		2		12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅵ(未開講)	3前後		2		12	4				
	小計(6科目)	—	4	8		12	4	0	0	0	0
指導研究	国際地域学研究指導	1・2・3前後	—			12	3				
	小計(1科目)	—				12	3	0	0	0	0
	合計(7科目)	—	4	8		12	4	0	0	0	0
卒業要件及び履修方法											
本課程に5年(博士前期課程・修士課程を修了したもの)にあつては、当該課程における在学期間を含む)以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。 ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたものについては、大学院に3年(博士前期課程・修士課程を修了したもの)にあつては、当該課程における在学期間を含む)以上在学すれば足りるものとする。 国際地域学特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各セメスタに1科目ずつ順を追って履修しなければならない。											

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
授業科目	国際地域学特殊研究Ⅰ	1前後	2			12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅱ	1前後	2			12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅲ(未開講)	2前後		2		12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅳ(未開講)	2前後		2		12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅴ(未開講)	3前後		2		12	4				
	国際地域学特殊研究Ⅵ(未開講)	3前後		2		12	4				
	小計(6科目)		4	8		12	4	0	0	0	0
指導研究	国際地域学研究指導	1・2・3前後	—			12	3				
	小計(1科目)	—				12	3	0	0	0	0
	合計(7科目)	—	4	8		12	4	0	0	0	0
卒業要件及び履修方法											
本課程に5年(博士前期課程・修士課程を修了したもの)にあつては、当該課程における在学期間を含む)以上在学し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文審査および最終試験に合格した者に博士の学位を授与する。 ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げたものについては、大学院に3年(博士前期課程・修士課程を修了したもの)にあつては、当該課程における在学期間を含む)以上在学すれば足りるものとする。 国際地域学特殊研究Ⅰ～Ⅵは、各セメスタに1科目ずつ順を追って履修しなければならない。											

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) 一②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育上の効果を向上させるため専任教員（准教授）を新規採用したこと、及び担当教員の身分昇格により、「国際地域学特殊研究Ⅰ」「国際地域学特殊研究Ⅱ」「国際地域学特殊研究Ⅲ」「国際地域学特殊研究Ⅳ」「国際地域学特殊研究Ⅴ」「国際地域学特殊研究Ⅵ」の専任教員等の配置を変更（准教授2→准教授4、講師1→講師0）。
- ・教育上の効果を向上させるため専任教員（准教授）を新規採用したことにより、「国際地域学研究指導」の専任教員等の配置を変更（准教授2→准教授3）。

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
3 科目	4 科目	0 科目	7 科目	3 科目 []	4 科目 []	0 科目 []	7 科目 []	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由，代替措置の有無
1						
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{7} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3) 未開講科目」と「(4) 廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
	校 舎 敷 地	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	0㎡	0㎡	328,547.58㎡ 328,615.58㎡	赤羽台キャンパス土地 登記手続等による修正 (30)			
	運動場用地	189,576.05㎡	0㎡	0㎡	189,576.05㎡				
	小 計	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	0㎡	0㎡	518,123.63㎡ 518,191.63㎡	借用面積 1,005.61㎡ 借用期間 2011/4/1～ 2041/3/31 H11.4.18～H41.4.17 借用期間の誤記修正 (30)			
	そ の 他	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡	0㎡	0㎡	309,678.35㎡ 290,230.61㎡ 290,230.82㎡				
	合 計	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	0㎡	0㎡	827,801.98㎡ 808,354.24㎡ 808,422.45㎡	新校舎建設予定地取得 による変更 (元)			
(2)校舎	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体			
		217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	217,555.61㎡ 217,407.65㎡ 217,718.73㎡ (217,555.61㎡) (217,407.65㎡) (217,718.73㎡)	改修工事等による変更 (30) 改修工事等による変更 (元)			
(3)教室等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体			
	330室 327室 328室			35室 33室 12 14 (補助職員 27 人)	5室 (補助職員0人)				
(4)専任教員研究室		新設学部等の名称			室 数				
		国際学研究科国際地域学専攻			20 室				
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 点	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書・学術雑誌・電子 ジャーナル・視聴覚資 料：受入数変動による 変更(30) 図書・学術雑誌・電子 ジャーナル・視聴覚資 料：受入数変動による 変更(元)	
	国際学研究科	1,581,832 [349,515] 1,582,706 [350,912] 1,619,536 [353,557] (1,561,606 [347,373]) (1,561,492 [350,921]) (1,566,737 [350,492])	16,875 [5,492] 17,378 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,378 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,686 [18,586] 26,156 [25,510] (19,599 [19,455]) (18,686 [18,586]) (26,156 [25,510])	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,483) (23,833)	— (—) (—)	— (—) (—)		
	計	1,581,832 [349,515] 1,582,706 [350,912] 1,619,536 [353,557] (1,561,606 [347,373]) (1,561,492 [350,921]) (1,566,737 [350,492])	16,875 [5,492] 17,378 [5,500] 17,516 [5,525] (16,875 [5,492]) (17,378 [5,500]) (17,516 [5,525])	19,599 [19,455] 18,686 [18,586] 26,156 [25,510] (19,599 [19,455]) (18,686 [18,586]) (26,156 [25,510])	23,167 22,873 24,441 (22,711) (22,483) (23,833)	— (—) (—)	— (—) (—)		
(6)図書館	面 積	閱 覧 座 席 数			収 納 可 能 冊 数			白山キャンパス及び川越 キャンパスの書架及び閲覧 席の増減による変更(30) 白山キャンパス及び川越 キャンパスの書架並びに板 倉キャンパス閲覧席の増減 による変更(元)	
		17,498.63㎡ 17,211.03㎡			2,758席 2,763席 2,746席				2,081,075冊 2,122,790冊 2,121,775冊
(7)体育館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要						運動部用倉庫取壊しに よる変更 (元)	
		21,067.33㎡ 21,097.14㎡ 21,249.08㎡			野 球 場 1 面、サッカー場 2 面 テ ニ ス コ ー ト 13 面 等				
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	博士前期課程	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	計画見直しに伴う変更 (30) 計画見直しに伴う変更 (元)
		教員 1 人 当 り 研究費等	532千円	532千円	図書購入費	713千円	783千円 828千円	739千円 973千円	
		共 同 研 究 費 等	80,000千円	80,000千円	設備購入費	771千円	859千円 892千円	2,221千円 846千円	
		学 生 1 人 当 り 納 付 金	第 1 年 次 810千円	第 2 年 次 540千円	第 3 年 次 千円	第 4 年 次 千円	第 5 年 次 千円	第 6 年 次 千円	
		学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。					

(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	博士後期課程	区 分		開設年度	完成年度	区 分		開設前年度	開設年度	完成年度	計画見直しに伴う変更 (30)
		教員 1 人当り研究費等		532千円	532千円	図書購入費		713千円	783千円 828千円	1,076千円	
		共 同 研 究 費 等		80,000千円	80,000千円	設備購入費		771千円	859千円 892千円	846千円	
		学生 1 人当り 納付金	第 1 年次	第 2 年次	第 3 年次	第 4 年次	第 5 年次	第 6 年次			
			790千円	520千円	520千円	千円	千円	千円			
		学生納付金以外の維持方法の概要			手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。						

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号（その 1 の 1）に準じて作成してください。（複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1) 校地等」及び「(2) 校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。）
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨（所要時間・距離等）を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5) 図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8) 経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学 の 名 称	東 洋 大 学									備 考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の学 科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度	年度	
大学院修士・博士前期課程 文学研究科										
哲学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.70	—	昭和27 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.37	—	昭和27 年度	同上	
日本文学文化専攻	2	10	—	20	修士 (文学)	0.65	—	昭和27 年度	同上	
中国哲学専攻	2	4	—	8	修士 (文学)	0.50	—	昭和29 年度	同上	
英文学専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.40	—	昭和31 年度	同上	
史学専攻	2	6	—	12	修士 (文学)	0.49	—	昭和42 年度	同上	
教育学専攻	2	20	—	40	修士 (教育学)	0.22	—	平成6年 度	同上	
英語コミュニケーション専攻	2	—	—	—	修士 (英語コミュニ ケーション)	—	—	平成16 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	2	10	—	10	修士 (国際文化コミュ ニケーション)	0.50	—	平成31 年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	2	10	—	20	修士(社会学)	0.50	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会心理学専攻	2	12	—	24	修士 (社会心理学)	0.49	—	平成16 年度	同上	
福祉社会システム専攻	2	20	—	40	修士(社会 学)又は修士 (社会福祉 学)	0.15	—	平成30 年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.40	—	昭和39 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
公法学専攻	2	10	—	20	修士 (法学)	0.45	—	昭和51 年度	同上	
経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	2	22	—	22	修士(経営 学)又は修士 (マーケティング)	0.36	—	平成31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学専攻	2	—	—	—	修士 (経営学)	—	—	昭和47 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	2	28	—	48	修士 (経営学)	0.85	—	平成18 年度	同上	平成31年度入学定 員変更(8)
マーケティング専攻	2	—	—	—	修士 (マーケティング)	—	—	平成22 年度	同上	平成31年度より学生 募集停止
理工学研究科										
生体医工学専攻	2	18	—	36	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	埼玉県川越市鯨井2100	
応用化学専攻	2	12	—	24	修士 (理工学)	1.04	—	平成26 年度	同上	
機能システム専攻	2	15	—	30	修士 (理工学)	0.93	—	平成26 年度	同上	
電気電子情報専攻	2	11	—	22	修士 (理工学)	0.58	—	平成26 年度	同上	

都市環境デザイン専攻	2	8	—	16	修士 (工学)	0.62	—	平成26 年度	同上	
建築学専攻	2	14	—	28	修士 (工学)	0.92	—	平成26 年度	同上	
工学研究科										
機能システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生 募集停止
バイオ・応用化学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上	平成26年度より学生 募集停止
環境・デザイン専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上	平成26年度より学生 募集停止
情報システム専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上	平成26年度より学生 募集停止
経済学研究科										
経済学専攻	2	10	—	20	修士 (経済学)	1.05	—	昭和51 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
公民連携専攻	2	30	—	60	修士 (経済学)	0.66	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号 東京都千代田区 大手町2丁目2番1号	
国際学研究科										
国際地域学専攻	2	15	—	30	修士 (国際地域学)	0.63	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際観光学研究科										
国際観光学専攻	2	15	—	30	修士 (国際観光学)	0.59	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域学研究科										
国際地域学専攻	2	—	—	—	修士 (国際地域学)	—	—	平成13 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成30年度より学生 募集停止
国際観光学専攻	2	—	—	—	修士 (国際観光学)	—	—	平成17 年度	同上	平成30年度より学生 募集停止
生命科学研究科										
生命科学専攻	2	20	—	40	修士 (生命科学)	1.07	—	平成13 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科										
社会福祉学専攻	2	20	—	40	修士(社会福祉 学)又は修士 (ソーシャルワ ーク)	0.77	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科										
生活支援学専攻	2	10	—	20	修士(社会福祉 学)又は修士(保 育学)	0.70	—	平成30 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
健康スポーツ学専攻	2	10	—	20	修士(健康スポ ーツ学)	0.20	—	平成30 年度	同上	
人間環境デザイン専攻	2	10	—	20	修士(人間環境デ ザイン学)	0.30	—	平成30 年度	同上	
福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉 学)又は修士 (ソーシャルワ ーク)	—	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成30年度より学生 募集停止
福祉社会システム専攻	2	—	—	—	修士(社会学) 又は修士(社会 福祉学)	—	—	平成18 年度	同上	平成30年度より学生 募集停止
ヒューマンデザイン専攻	2	—	—	—	修士(社会福祉 学)又は修士 (健康デザ イン学)	—	—	平成18 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	平成30年度より学生 募集停止

人間環境デザイン専攻	2	—	—	—	修士(人間環境デザイン学)	—	—	平成21年度	同上	平成30年度より学生募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオ・ナノサイエンス融合専攻	2	12	—	24	修士(バイオ・ナノサイエンス融合)	0.62	—	平成23年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										
総合情報学専攻	2	15	—	30	修士(情報学)	0.86	—	平成28年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	2	10	—	20	修士(食環境科学)	0.65	—	平成28年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	2	20	—	40	修士(情報連携学)	0.10	—	平成29年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院修士・博士前期課程)	—	451	—	862	—	—	—	—	—	
大学院博士後期課程										
文学研究科										
哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.55	—	昭和43年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
インド哲学仏教学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.66	—	昭和29年度	同上	
日本文学文化専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	昭和29年度	同上	
中国哲学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
英文学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.22	—	昭和39年度	同上	
史学専攻	3	3	—	9	博士(文学)	0.33	—	平成11年度	同上	
教育学専攻	3	4	—	12	博士(教育学)	0.25	—	平成11年度	同上	
英語コミュニケーション専攻	3	—	—	—	博士(英語コミュニケーション)	—	—	平成19年度	同上	平成31年度より学生募集停止
国際文化コミュニケーション専攻	3	3	—	3	博士(国際文化コミュニケーション)	0.66	—	平成31年度	同上	
社会学研究科										
社会学専攻	3	3	—	9	博士(社会学)	0.22	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会心理学専攻	3	5	—	15	博士(社会心理学)	0.73	—	平成18年度	同上	
法学研究科										
私法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.26	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
公法学専攻	3	5	—	15	博士(法学)	0.06	—	平成12年度	同上	
経営学研究科										
経営学・マーケティング専攻	3	4	—	4	博士(経営学)又は博士(マーケティング)	0.00	—	平成31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
経営学専攻	3	—	—	—	博士(経営学)	—	—	平成11年度	同上	平成31年度より学生募集停止
ビジネス・会計 ファイナンス専攻	3	3	—	13	博士(経営学)または博士(会計・ファイナンス)	0.33	—	平成22年度	同上	平成31年度入学定員変更(△2)
マーケティング専攻	3	—	—	—	博士(マーケティング)	—	—	平成24年度	同上	平成31年度より学生募集停止
理工学研究科										
生体医工学専攻	3	3	—	9	博士(理工学)	0.22	—	平成26年度	埼玉県川越市鯨井2100	

応用化学専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.22	—	平成26 年度	同上	
機能システム専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.00	—	平成26 年度	同上	
電気電子情報専攻	3	3	—	9	博士 (理工学)	0.33	—	平成26 年度	同上	
建築・都市デザイン専攻	3	3	—	9	博士 (工学)	0.00	—	平成26 年度	同上	
工学研究科										
機能システム専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	—	平成17 年度	埼玉県川越市鯨井2100	平成26年度より学生 募集停止
バイオ・応用化学専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上	平成26年度より学生 募集停止
環境・デザイン専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上	平成26年度より学生 募集停止
情報システム専攻	3	—	—	—	博士 (工学)	—	—	平成17 年度	同上	平成26年度より学生 募集停止
経済学研究科										
経済学専攻	3	3	—	9	博士 (経済学)	0.66	—	昭和53 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際学研究科										
国際地域学専攻	3	5	—	10	博士 (国際地域学)	0.60	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際観光学研究科										
国際観光学専攻	3	3	—	6	博士 (国際観光学)	0.50	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域学研究科										
国際地域学専攻	3	—	—	—	博士 (国際地域学)	—	—	平成15 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成30年度より学生 募集停止
国際観光学専攻	3	—	—	—	博士 (国際観光学)	—	—	平成23 年度		平成30年度より学生 募集停止
生命科学研究科										
生命科学専攻	3	4	—	12	博士 (生命科学)	0.50	—	平成15 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号	
社会福祉学研究科										
社会福祉学専攻	3	5	—	10	博士(社会福祉 学)又は博士 (ソーシャルワ ーク)	0.90	—	平成30 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
ライフデザイン学研究科										
ヒューマンライフ学専攻	3	5	—	10	博士(社会福祉 学)又は博士(健 康スポーツ学)	0.80	—	平成30 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
人間環境デザイン専攻	3	4	—	8	博士(人間環境デ ザイン学)	0.00	—	平成30 年度	同上	
福祉社会デザイン研究科										
社会福祉学専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉 学)又は博士 (ソーシャルワ ーク)	—	—	平成18 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	平成30年度より学生 募集停止
ヒューマンデザイン専攻	3	—	—	—	博士(社会福祉 学)又は博士 (健康デザイン 学)	—	—	平成18 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	平成30年度より学生 募集停止
人間環境デザイン専攻	3	—	—	—	博士 (人間環境デ ザイン学)	—	—	平成21 年度	同上	平成30年度より学生 募集停止
学際・融合科学研究科										
バイオ・ナノサイエンス融合専攻	3	4	—	12	博士(バイオ・ナ ノサイエンス融合)	0.50	—	平成19 年度	埼玉県川越市鯨井2100	
総合情報学研究科										

総合情報学専攻	3	3	—	6	博士(情報学)	2.00	—	平成30年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学研究科										
食環境科学専攻	3	2	—	4	博士(食環境科学)	1.25	—	平成30年度	群馬県邑楽郡板倉町泉野1丁目1番1号	
情報連携学研究科										
情報連携学専攻	3	4	—	4	博士(情報連携学)	0.00	—	平成31年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	
大学全体 (大学院後期課程)	—	107	—	276	—	—	—	—	—	
大学全体(大学院)	—	558	—	1138	—	—	—	—	—	
文学部 第1部										
哲学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.11	—	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士(文学)	1.10	—	平成25年度	同上	
インド哲学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	平成25年度より学生募集停止
中国哲学文学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	昭和24年度	同上	平成25年度より学生募集停止
日本文学文化学科	4	133	—	599	学士(文学)	1.07	—	平成12年度	同上	平成29年度入学生定員変更(△67)
英米文学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.07	—	昭和24年度	同上	
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士(文学)	—	—	平成12年度	同上	平成29年度より学生募集停止
史学科	4	133	—	532	学士(文学)	1.02	—	昭和24年度	同上	
教育学科						0.99	—	昭和39年度	同上	
人間発達専攻	4	100	—	400	学士(教育学)	1.03	—	平成20年度	同上	
初等教育専攻	4	50	—	200	学士(教育学)	0.94	—	平成20年度	同上	
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	300	学士(文学)	1.13	—	平成29年度	同上	
経済学部 第1部										
経済学科	4	250	—	1000	学士(経済学)	1.08	—	昭和25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
国際経済学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
総合政策学科	4	183	—	732	学士(経済学)	1.09	—	平成12年度	同上	
経営学部 第1部										
経営学科	4	316	—	1264	学士(経営学)	1.05	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
マーケティング学科	4	150	—	600	学士(経営学)	1.10	—	昭和41年度	同上	
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士(経営学)	1.06	—	平成18年度	同上	
法学部 第1部										
法律学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.07	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
企業法学科	4	250	—	1000	学士(法学)	1.08	—	昭和40年度	同上	
社会学部 第1部										
社会学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.09	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号	
社会文化システム学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.07	—	平成12年度	同上	
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.11	—	平成12年度	同上	
社会心理学科	4	150	—	600	学士(社会学)	1.07	—	平成12年度	同上	

社会福祉学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.03	—	平成4 年度	同上	
理工学部										
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.03	—	昭和36 年度	埼玉県川越市鯨井2100	
生体医工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.02	—	平成21 年度	同上	
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.06	—	昭和36 年度	同上	
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.01	—	昭和36 年度	同上	
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.04	—	昭和37 年度	同上	
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.11	—	昭和37 年度	同上	
国際地域学部										
国際地域学科						—		平成9 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	平成22 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止
国際観光学科	4	—	—	—	学士 (国際観光学)	—	—	平成13 年度	同上	平成29年度より学生募集停 止
国際学部										
グローバル・イノベーション 学科	4	100	—	300	学士(グローバル・イ ノベーション学)	0.99	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域学科						1.02		平成29 年度	同上	
国際地域専攻	4	210	—	630	学士 (国際地域学)	1.02	—	平成29 年度	同上	
地域総合専攻	4	80	—	240	学士 (国際地域学)	1.00	—	平成29 年度	同上	
国際観光学部										
国際観光学科	4	366	—	1098	学士 (国際観光学)	1.02	—	平成29 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
生命科学部										
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	0.99	—	平成9 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号	
応用生物科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.02	—	平成21 年度	同上	
ライフデザイン学部										
生活支援学科						1.05		平成17 年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
生活支援学専攻	4	116	—	464	学士 (生活支援学)	1.11	—	平成21 年度	同上	
子ども支援学専攻	4	100	—	400	学士 (生活支援学)	0.98	—	平成21 年度	同上	
健康スポーツ学科	4	180	—	720	学士 (健康スポーツ学)	1.03	—	平成17 年度	同上	
人間環境デザイン学科	4	160	—	640	学士 (人間環境デザイン学)	1.11	—	平成18 年度	同上	
総合情報学部										
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.10	—	平成21 年度	埼玉県川越市鯨井2100	
食環境科学部										
食環境科学科						1.04		平成25 年度	群馬県邑楽郡板倉町泉 野1丁目1番1号	
フードサイエンス専攻	4	70	—	280	学士 (食環境科学)	1.01	—	平成25 年度	同上	
スポーツ・食品機能専攻	4	50	—	200	学士 (食環境科学)	1.09	—	平成25 年度	同上	
健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	0.98	—	平成25 年度	同上	
情報連携学部										

情報連携学科	4	400	—	1200	学士 (情報連携学)	1.01	—	平成29 年度	東京都北区 赤羽台1丁目7番11 号	
文学部 第2部										
東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士 (文学)	1.12	—	平成25 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
インド哲学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和31 年度	同上	平成25年度より学生 募集停止
日本文学文化学科	4	50	—	230	学士 (文学)	1.12	—	昭和27 年度	同上	平成29年度入学定 員変更(△30)
教育学科	4	40	—	160	学士 (教育学)	1.02	—	昭和39 年度	同上	
経済学部 第2部										
経済学科	4	150	—	600	学士 (経済学)	1.06	—	昭和32 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学部 第2部										
経営学科	4	110	—	440	学士 (経営学)	1.04	—	昭和41 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
法学部 第2部										
法律学科	4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	—	昭和31 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会学部 第2部										
社会学科	4	130	—	520	学士 (社会学)	1.08	—	昭和34 年度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会福祉学科	4	50	—	195	学士 (社会学)	1.00	—	平成13 年度	同上	平成31年度入学定 員変更(5) 平成31年度3年次 編入学定員廃止 (△10)
大学全体(学部)	—	7306	—	28060	—	—	—	—	—	
通信教育部										
文学部						—				
日本文学文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	昭和39 年度		平成30年度より学生 募集停止
法学部										
法律学科	4	—	—	—	学士 (法学)	—	—	昭和41 年度		平成30年度より学生 募集停止
大学全体(通信教育部)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	

- (注)・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<国際学研究科 国際地域学専攻（博士前期課程）>

(1) -① 担当教員表

【認可時又は届出時】			【平成30年度】			【令和元年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任（予定）年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任（予定）年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任（予定）年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	芦沢 真五 (59) <平成30年4月> Master of Education (米国) 国際教育開発特論	専	教授	芦沢 真五 (60) <平成30年4月> Master of Education (米国) 国際教育開発特論	専	教授	芦沢 真五 (61) <平成30年4月> Master of Education (米国) 国際教育開発特論
専	教授	芦野 俊宏 (54) <平成30年4月> 工学博士 ボーダーレスな社会とインターネット技術【隔年】	専	教授	芦野 俊宏 (55) <平成30年4月> 工学博士 ボーダーレスな社会とインターネット技術【隔年】	専	教授	芦野 俊宏 (56) <平成30年4月> 工学博士 ボーダーレスな社会とインターネット技術【隔年】
専	教授	荒巻 俊也 (49) <平成30年4月> 博士（工学） 調査手法演習A ※ 地球環境特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	荒巻 俊也 (49) <平成30年4月> 博士（工学） 調査手法演習A ※ 地球環境特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	荒巻 俊也 (50) <平成30年4月> 博士（工学） 調査手法演習A ※ 地球環境特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	安 相景 (60) <平成30年4月> Master of Science in Urban Planning (タイ) コミュニティ開発特論 住宅政策特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	安 相景 (61) <平成30年4月> Master of Science in Urban Planning (タイ) コミュニティ開発特論 住宅政策特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	安 相景 (62) <平成30年4月> Master of Science in Urban Planning (タイ) コミュニティ開発特論 住宅政策特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授 (研究科長)	岡村 敏之 (46) <平成30年4月> 博士（工学） 調査手法演習A ※ 都市交通計画特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授 (研究科長)	岡村 敏之 (47) <平成30年4月> 博士（工学） 調査手法演習A ※ 都市交通計画特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授 (研究科長)	岡村 敏之 (48) <平成30年4月> 博士（工学） 調査手法演習A ※ 都市交通計画特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	岡本 郁子 (49) <平成30年4月> 博士（地域研究） 調査手法演習B ※ 農村・農業開発特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授 (専攻長)	岡本 郁子 (50) <平成30年4月> 博士（地域研究） 調査手法演習B ※ 農村・農業開発特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授 (専攻長)	岡本 郁子 (51) <平成30年4月> 博士（地域研究） 調査手法演習B ※ 農村・農業開発特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	北脇 秀敏 (60) <平成30年4月> 工学博士 国際環境衛生特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	北脇 秀敏 (61) <平成30年4月> 工学博士 国際環境衛生特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	北脇 秀敏 (62) <平成30年4月> 工学博士 国際環境衛生特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授 (専攻長)	杉田 映理 (50) <平成30年4月> Ph. D. in Anthropology (米国) 調査手法演習B ※ 開発・新学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導						
専	教授	高橋 一男 (61) <平成30年4月> 政治学修士 調査手法演習B ※ 地域社会学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	高橋 一男 (62) <平成30年4月> 政治学修士 調査手法演習B ※ 地域社会学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導	専	教授	高橋 一男 (63) <平成30年4月> 政治学修士 調査手法演習B ※ 地域社会学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	西川 吉光 (61) <平成30年4月> 博士(法学)	専	教授	西川 吉光 (62) <平成30年4月> 博士(法学)	専	教授	西川 吉光 (63) <平成30年4月> 博士(法学)
		国際政治学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			国際政治学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			国際政治学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
			専	教授	沼尾 波子 (51) <平成30年4月> 修士(経済学)	専	教授	沼尾 波子 (52) <平成30年4月> 修士(経済学)
					調査手法演習B ※ 財政学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			調査手法演習B ※ 財政学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	子島 道 (53) <平成30年4月> 博士(文学)	専	教授	子島 道 (54) <平成30年4月> 博士(文学)	専	教授	子島 道 (54) <平成30年4月> 博士(文学)
		Japan Studies ※			Japan Studies ※			Japan Studies ※
専	教授	久松 佳彰 (50) <平成30年4月> 修士(学術)	専	教授	久松 佳彰 (51) <平成30年4月> 修士(学術)	専	教授	久松 佳彰 (52) <平成30年4月> 修士(学術)
		Japan Studies ※			Japan Studies ※ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			Japan Studies ※ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	藤本(水野) 典嗣 (46) <平成30年4月> 博士(経済学)	専	教授	藤本(水野) 典嗣 (47) <平成30年4月> 博士(経済学)	専	教授	藤本(水野) 典嗣 (48) <平成30年4月> 博士(経済学)
		経済地理学特論 都市地理学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			経済地理学特論 都市地理学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			経済地理学特論 都市地理学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	松丸 亮 (54) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	松丸 亮 (55) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	松丸 亮 (56) <平成30年4月> 博士(工学)
		水資源・環境学特論 災害・危機管理特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			水資源・環境学特論 災害・危機管理特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			水資源・環境学特論 災害・危機管理特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	藪長 千乃 (47) <平成30年4月> 修士(学術)	専	教授	藪長 千乃 (48) <平成30年4月> 修士(学術)	専	教授	藪長 千乃 (49) <平成30年4月> 修士(学術)
		アカデミック・リーディング 福祉社会特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			アカデミック・リーディング 福祉社会特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			アカデミック・リーディング 福祉社会特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授	山崎 義人 (45) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	山崎 義人 (46) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	山崎 義人 (47) <平成30年4月> 博士(工学)
		空間計画演習 ※ 空間計画特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			空間計画演習 ※ 空間計画特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			空間計画演習 ※ 空間計画特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	准教授	志摩 憲寿 (40) <平成30年4月> 博士(工学)	専	准教授	志摩 憲寿 (41) <平成30年4月> 博士(工学)	専	准教授	志摩 憲寿 (42) <平成30年4月> 博士(工学)
		都市・地域計画特論 空間計画演習 ※ 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			都市・地域計画特論 空間計画演習 ※ 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			都市・地域計画特論 空間計画演習 ※ 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	准教授	染矢 将和 (53) <平成30年4月> 博士(学術)	兼任 講師		染矢 将和 (54) <平成30年4月> 博士(学術)			
		国際経済学特論 開発経済学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			国際経済学特論			

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	中島 晶子 (49) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	中島 晶子 (50) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	中島 晶子 (51) <平成30年4月> 博士(学術)
		Japan Studies ※ 国際関係学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			Japan Studies ※ 国際関係学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			Japan Studies ※ 国際関係学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	准教授		専	准教授	中村(太田) 香子 (52) <平成30年4月> 博士(地域研究)	専	准教授	中村(太田) 香子 (53) <平成30年4月> 博士(地域研究)
					調査手法演習Ⅱ ※ 開発人類学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導			調査手法演習Ⅱ ※ 開発人類学特論 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	講師	佐々木 悠介 (40) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	佐々木 悠介 (41) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	佐々木 悠介 (42) <平成30年4月> 博士(学術)
		比較文化特論A 比較文化特論B			比較文化特論A 比較文化特論B			比較文化特論A 比較文化特論B 国際地域応用学特論 国際地域応用学演習Ⅰ 国際地域応用学演習Ⅱ 国際地域応用学演習Ⅲ 国際地域応用学演習Ⅳ 国際地域学特殊研究 国際地域学研究指導
専	教授		兼任	教授	カーン シャヘッド (59) <平成30年4月> Ph. D. in Urban Planning (タイ)	専	教授	
					コミュニティ開発特論			
専	教授		兼任	講師	坂元 浩一 (65) <平成30年4月> 博士(経済学)	専	教授	
					開発経済学特論			
専	教授		兼任	講師		兼任	講師	坪田 達明 (39) <平成31年4月> 博士(経済学)
								国際経済学特論
専	教授		兼任	講師		兼任	講師	渡 一樹 (39) <平成31年4月> MA in Political Economy (米國)
								開発経済学特論

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
 - ・ その上で、既出職又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
 - ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
 - ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・杉田映理教授の他大学移籍により、後任として中村香子准教授が平成30年4月着任。平成30年1月教員資格審査済み。
- ・杉田映理教授の他大学移籍により、専攻長を岡本郁子教授へ変更。
- ・染矢将和准教授の専任教員としての就任辞退により、職名を兼任講師へ、担当授業科目を「国際経済学特論」のみへ変更。
- ・久松佳彰教授の担当授業科目を追加（「国際地域学特殊研究」「国際地域学研究指導」）。
- ・佐々木悠介専任講師の昇格により、職名を変更（講師→准教授）。
- ・平成30年4月沼尾波子教授着任。平成29年11月資格審査済み。
- ・平成30年4月カーン・シャヘッド兼任教授着任。平成30年2月資格審査済み。
- ・平成30年4月坂元浩一兼任講師着任。平成30年2月資格審査済み。

【令和元年度】

- ・佐々木悠介准教授の担当授業科目を追加（「国際地域応用学特論」「国際地域応用学演習Ⅰ」「国際地域応用学演習Ⅱ」「国際地域応用学演習Ⅲ」「国際地域応用学演習Ⅳ」「国際地域学特殊研究」「国際地域学研究指導」）。
- ・染矢将和兼任講師退職により、後任として坪田建明兼任講師着任。平成30年12月資格審査済み。
- ・平成31年4月湊一樹兼任講師着任。平成30年12月資格審査済み。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5	4	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
16	3	1	0	20	16	4	0	0	20
(16)	(3)	(1)	(0)	(20)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
15	0	5			17	0	3		
(15)	(0)	(5)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
16	4	0	0	20	16	4	0	0	20
[16]	[4]	[Δ1]	[0]	[20]	[16]	[4]	[Δ1]	[0]	[20]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
17	0	3			17	0	3		
[17]	[0]	[Δ2]			[17]	[0]	[Δ2]		

- (注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ **「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入**するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
平成7年度以前採用：70 平成8年度以降採用：65	0	0
歳	名	名

- (注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{20} = 0\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{20} = 0\%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	杉田 映理	H29. 10	選択	調査手法演習B	①	H29. 10 他大学へ移籍したため就任辞退（30）						
				選択	開発人類学特論	①							
				選択	国際地域応用学特論	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅰ	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅱ	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅲ	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅳ	①							
				必修	国際地域学特殊研究	①							
				必修	国際地域学研究指導	①							
2	准教授	染矢 将和	H29. 10	選択	国際経済学特論	②	H29. 10 一身上の理由のため就任辞退（30）						
				選択	開発経済学特論	②							
				選択	国際地域応用学特論	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅰ	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅱ	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅲ	①							
				選択	国際地域応用学演習Ⅳ	①							
				必修	国際地域学特殊研究	①							
				必修	国際地域学研究指導	①							
合 計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
2	人	必修	4	科目	必修	4	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	14	科目	選択	12	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	18	科目	計	16	科目	計	2	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合計（F）					後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）		②の合計数（b）	③の合計数（c）		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) -③ 上記(3) -① ・ (3) -② の合計

合計 (D) + (F)				後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)		①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)			
2	人	必修	4 科目	必修	4 科目	必修	0 科目	必修	0 科目		
		選択	14 科目	選択	12 科目	選択	2 科目	選択	0 科目		
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目		
		計	18 科目	計	16 科目	計	2 科目	計	0 科目		

(3) -④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{2}{20} = \boxed{10} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) -⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

講義科目及び演習科目については、後任の専任教員が着任するほか、当初担当予定の専任教員が兼任教員として科目を担当したり、他の教員の代替が可能である。また、研究指導については同分野の専任教員が担当するため、教育・研究の遂行については支障がないと判断している。

学生への周知については、教育課程についての変更はなく、学生には着任した教員のみを周知しているため、特段、担当教員の変更を学生には周知していない。

- (注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(1) ① 担当教員表

專任：		
兼担：		

34

専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏 名 (年 齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	藤本(水野) 典嗣 (46) <平成30年4月> 博士(経済学)	専	教授	藤本(水野) 典嗣 (47) <平成30年4月> 博士(経済学)	専	教授	藤本(水野) 典嗣 (48) <平成30年4月> 博士(経済学)
		国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導
専	教授	松丸 亮 (54) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	松丸 亮 (55) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	松丸 亮 (56) <平成30年4月> 博士(工学)
		国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導
専	教授	藪長 千乃 (47) <平成30年4月> 修士(学術)	専	教授	藪長 千乃 (48) <平成30年4月> 修士(学術)	専	教授	藪長 千乃 (49) <平成30年4月> 修士(学術)
		国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導
専	教授	山崎 義人 (45) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	山崎 義人 (46) <平成30年4月> 博士(工学)	専	教授	山崎 義人 (47) <平成30年4月> 博士(工学)
		国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導
専	准教授	志摩 憲寿 (40) <平成30年4月> 博士(工学)	専	准教授	志摩 憲寿 (41) <平成30年4月> 博士(工学)	専	准教授	志摩 憲寿 (42) <平成30年4月> 博士(工学)
		国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導
専	准教授	中島 晶子 (49) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	中島 晶子 (50) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	中島 晶子 (51) <平成30年4月> 博士(学術)
		国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導
専	准教授		専	准教授	中村(太田) 香子 (52) <平成30年4月> 博士(地域研究)	専	准教授	中村(太田) 香子 (53) <平成30年4月> 博士(地域研究)
					国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ 国際地域学研究指導
専	講師	佐々木 悠介 (40) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	佐々木 悠介 (41) <平成30年4月> 博士(学術)	専	准教授	佐々木 悠介 (42) <平成30年4月> 博士(学術)
		国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ			国際地域学特殊研究Ⅰ 国際地域学特殊研究Ⅱ 国際地域学特殊研究Ⅲ 国際地域学特殊研究Ⅳ 国際地域学特殊研究Ⅴ 国際地域学特殊研究Ⅵ

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。

その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。

- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の満年齢を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・ 杉田映理教授の他大学移籍により、後任として中村香子准教授が平成30年4月着任。平成30年1月教員資格審査済み。
- ・ 杉田映理教授の他大学移籍により、専攻長を岡本郁子教授へ変更。
- ・ 平成30年4月沼尾波子教授着任。平成29年11月資格審査済み。

【令和元年度】

特になし。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) ー① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数	完成年度時における 設置基準上の必要研究 指導補助教員数
5	4	4
名	名	名

(注) ・ 大学院に専攻ごとに置くものとする教員の数について定める件（平成十一年九月十四日文部省告示第七十五号）により算出される教員数を記入してください。

(2) ー② 専任教員数【大学院】

設 置 時 の 計 画					現在（報告時）の状況				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (A)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (B)
12	2	1	0	15	12	4	0	0	16
(12)	(2)	(1)	(0)	(15)					
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
14	0	1			15	0	1		
(14)	(0)	(1)							
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教 授	准教授	講 師	助 教	計 (C)	教 授	准教授	講 師	助 教	計 (D)
12	4	0	0	16	12	4	0	0	16
[]	[2]	[Δ1]	[]	[1]	[]	[2]	[Δ1]	[]	[1]
研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数			研究指導教員 数	研究指導補助 教員数	講義のみ担当 の教員数		
15	0	1			15	0	1		
[1]	[]	[]			[1]	[]	[]		

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入」するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 専門職大学院の場合は、「研究指導教員」を「研究者教員」と、「研究指導補助教員」を「実務家教員」と修正して記入してください。

(2) ー③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員の うち、定年を延長 して採用する教員数
平成7年度以前採用：70 平成8年度以降採用：65	0	0
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) ー④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{0}{15} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) ー⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{0}{16} = \boxed{0} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	杉田 映理	H29.10	必修	国際地域学特殊研究Ⅰ	①	H29.10 他大学へ移籍したため就任辞退（30）						
				必修	国際地域学特殊研究Ⅱ	①							
				選択	国際地域学特殊研究Ⅲ	①							
				選択	国際地域学特殊研究Ⅳ	①							
				選択	国際地域学特殊研究Ⅴ	①							
				選択	国際地域学特殊研究Ⅵ	①							
				必修	国際地域学研究指導	①							
合 計（D）						後任補充状況の集計（E）							
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）				①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）					
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	7	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
合 計 （ F ）					後任補充状況の集計 （ G ）					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)	③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
- ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計（D）＋（F）				後任補充状況の集計（E）＋（G）									
辞任等した教員数		担当科目数の合計（a）＋（b）＋（c）			①の合計数（a）			②の合計数（b）			③の合計数（c）		
1	人	必修	3	科目	必修	3	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	4	科目	選択	4	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	7	科目	計	7	科目	計	0	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3)-(3)合計(D)+(F)}{(2)-(2)設置時の計画(A)} = \frac{1}{15} = 6.66 \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番 号	職 位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
合 計					後任補充状況の集計					
辞任した教員数		担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)	②の合計数 (b)	③の合計数 (c)			
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および () 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

後任の専任教員が着任して担当するため、教育・研究の遂行については支障がないと判断している。
 学生への周知については、教育課程についての変更はなく、学生には着任した教員のみを周知しているため、特段、担当教員の変更を学生には周知していない。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (H29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (H31年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<国際学研究科 国際地域学専攻>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど
特になし	

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）
及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学のFD・SD推進活動においては、平成19年4月に「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長に兼委員長に副学長を充て、各学部・研究科から1名の委員を選出し構成し各学部・研究科の有機的な連携のもとFD・SD活動を全学的に推進してきた。さらに平成27年4月には、職員を構成員に含め、教職協働によるFD・SD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程上でも明確にした。

平成29年4月からは、これまでの「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。

具体的には、①FD・SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教員の資質向上に向けて取り組んでいる。

なお、委員会の委員の構成については、従来の組織体制に加え、平成29年度より高等教育推進センター専属スタッフのセンター員を加えた形で全学的なFD・SD組織として活動しており、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

全体委員会は年4～6回程度開催しており、規程上、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員、センター員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年3～5回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

- ・ 委員会の年次活動計画について
- ・ 部会の設置と各委員の配属について
- ・ 授業評価アンケートの有効活用に向けたアンケート調査について
- ・ 各種FD・SD企画の開催について 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチングアシスタント）/SA（スタッフアシスタント）FD研修会

・ 講演及びワークショップ形式

平成30年4月14日/18日開催 参加者：67名

○ 新任教員FD研修会

・ 講演及びワークショップ形式

平成30年7月7日 参加者：55名（+遠隔参加9名）

○ FDワークショップ「英語で効果的に教えるために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年7月14日 参加者：9名

○ 学長フォーラム

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年8月3日 参加者：56名

○ FDワークショップ「英語で研究指導を行うために」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年10月6日 参加者：12名

○ FDワークショップ「学生の学びを促す評価」

・講演及びワークショップ形式（外部講師招聘）

平成30年12月8日 参加者：11名

○ 英語で行うためのFD研修会

・ワークショップ形式（外部講師招聘）

平成31年3月12日 参加者：21名

○=東洋大学全学実施

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部・研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部・研究科では、さらに独自のFD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有するとともに、毎年、各学部・研究科ごとにFD活動報告書を作成し、それらを取りまとめた「東洋大学FD活動報告書」を作成している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

研修会の実施の他には、平成30年度から全専任教職員を対象にメールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を隔週で配信し、情報発信を強化している（平成30年度配信回数14回）。具体的な内容としては「学修／学習時間の実態と教育手法」「わたしが実践する授業の工夫」について、複数回にわたり高等教育推進委員会委員を中心に執筆したコラムを連載するほか、高等教育に関する有益な情報や教育内容・方法に関するグッドプラクティスを学内で共有している。

加えて他大学等で開催される研修会へ参加する場合の参加費や交通費を補助しており、平成30年度はのべ45名が学外のFD・SD研修会等に参加した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29年度からは、実施方法をWEBに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。

また、実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業の分かりやすさ」「授業運営」「学習成果」「授業の難易度と進捗」に分類したカテゴリごとの改善必要度を明らかにした教員個人の結果表を各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。（URL：<http://www.toyo.ac.jp/ja-JP/academics/improve/fd/survey/>）

また、学生への公開については、平成29年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見を同システム上に入力することとなり、当該科目の履修学生はその所見についても確認できる仕組みとなっている。一方的にアンケートを行うのではなく、学生にアンケートの活用がなされていることを示し回答率向上を目指している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

- a 委員会の設置状況（各区分を踏まえた委員構成を踏まえた委員の追加や交代状況含む）
- b 委員会の開催状況（回数や開催日など）
- c 委員会の審議事項等
- d その他

該当なし。

② 審議状況

- a 審議した内容
- b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況
- c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし。

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

本研究科は、国際地域学研究科国際地域学専攻からの発展的改組を行い、平成30年度より国際学研究科として発足し、国際地域学専攻の1専攻を有している。本専攻は、国際的な視野のもとで自律的・持続的な地域の発展に貢献する地域開発リーダーとしての専門家を養成することを目的としている。アドミッション・ポリシーとしては、国内外の地域の現状と課題に対する知識、地域の現状と課題を理解し分析する能力、またこれらの調査研究に意欲を持つ者を受け入れるとしており、それに基づき、入学希望者の特性に応じた適切な方法で多様な入学者選抜試験を実施し、筆記試験、面接、書類選考等を通じて、資質や能力を示した者を受け入れた。その結果、平成30年度4月および9月入学者をあわせて、前期課程では留学生5名を含む15名（定員15名）が合格／入学し、後期課程では学内推薦入試で4名（定員5名）が入学した。初年度から概ね定員を充足している。平成31年4月入学者については、前期課程では留学生を含む一般入試から3名、JICAボランティア入試から1名の計4名が合格／入学し（うち2名が学内推薦）、後期課程では学内推薦入試で2名が入学した。本研究科は年に2回の試験（8月と2月）と、4月入学の他に秋入学制度を設けており、例年の傾向から令和元年秋入学も一定数の入学者が見込まれることから、前期課程の定員15名を概ね充足できると考えられ、また後期課程についても、秋入学の社会人を考慮すると定員の5名に近い入学者を期待できる。

教育課程では、前期課程は「リサーチ・スキル科目」と専門科目としての「国際学分野科目」「地域開発分野科目」を設定している。「リサーチ・スキル科目」は3科目6単位以上を修得すべき選択必修科目であり、特に「調査手法演習B」は主に秋に入学する英語で修了を希望する留学生に配慮し、日・英で開講している。全ての学生がフィールド調査を計画・実施し、早期に研究者として持つべき基礎的な調査・分析能力が修得できるよう配置している。「国際学分野科目」「地域開発分野科目」は、いずれもグローバル社会における国内外の課題について、文献講読やケーススタディを通して専門的知識を習得できるよう科目を配置している。ほぼ全ての科目を日本語と英語でそれぞれ隔年開講し、英語のみで前期課程を修了することを可能としている。また、日本人学生や日本語で学位取得を目指す学生についても、一般入試および留学生入試において英語を必須としたことから、日本語／英語のどちらの講義も受講可能であり、日ごろから専門的な英語に接する機会を提供している。さらに研究指導科目として「国際地域学特殊研究」を設定し、学生は各セメスタでの発表を通して研究成果の向上に努める一方、教員は研究の進捗状況を詳細に把握し、複数の教員が明示的に評価することで、修士論文の研究をより深く確実に進めるカリキュラムとしている。後期課程では、研究指導科目と授業科目を主に主指導教員から履修することで、深い専門性を養成するカリキュラムとしている。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

・令和元年5月 公表

b 公表方法

・上記のいずれもホームページにて公表
<http://www.toyo.ac.jp/site/quality-assurance/72905.html>

③ 認証評価を受ける計画

平成26年度に公益財団法人大学基準協会の大学評価（認証評価・機関別認証評価）を受審し、平成27年3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、大学基準協会及び本学のホームページにて公表済み。平成26年度の認証評価の際の指摘事項については、平成27年度中に改善に取り組み、平成30年7月に改善報告書を提出した。

次期の大学評価（認証評価・機関別認証評価）の受審は2021年度を予定している。

（注）・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書（令和元年度）

a ホームページへの公表予定の有無 （ ☒ 有 ・ ☐ 無 ）

b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 5月 31日 ）

b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

（注）・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

建築等設置計画変更書

平成30年度開設

東洋大学大学院 国際学研究科		
建 物 区 分	届出時の計画	変 更 計 画
(7) 体育館 運動部用倉庫	29.81m ²	0.00m ²
	2018/11 川越キャンパス運動部用倉庫の老朽化による取壊しに伴う変更のため、授業には支障無し。	

(注) 1 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、上記様式により提出してください。

ただし、面積の増加や建築計画と登記上の面積の誤差並びに建築計画が早まる場合には、この書類の提出は不要です。

2 面積が減少する場合及び校舎建て替えの場合には変更に係る図面及び新旧対照表を、建築計画の遅延の場合には工程表をそれぞれ添付してください。

3 校地の計画の変更が生じる場合には、「建築等設置計画変更書」を「校地面積変更書」に、「建物区分」欄を「団地の名称」に変更して提出してください。

○東洋大学高等教育推進センター規程

平成20年規程第39号・平成20年12月17日公示・平成20年12月1日施行

改正

平成27年4月20日

平成29年4月1日

平成30年4月1日

東洋大学高等教育推進センター規程

(設置)

第1条 東洋大学（以下「本学」という。）は、東洋大学学則第3条の3及び東洋大学大学院学則第1条の3に基づき、「東洋大学高等教育推進センター」（以下「高等教育推進センター」という。）を設置する。

(目的)

第2条 高等教育推進センターは、本学の教育活動の継続的な改善、改革を組織的に推進、支援することを目的とする。

(事業)

第3条 高等教育推進センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 教育内容及び方法改善のための調査、研究及び支援
- (2) FD（ファカルティ・ディベロップメント）及びSD（スタッフ・ディベロップメント）の研究会、研修会、講演会等の企画、実施及び支援
- (3) 国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供
- (4) 新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発
- (5) 各学部、研究科での教育活動の改善、改革の情報交換、調整及び支援
- (6) その他高等教育推進センターの目的達成に必要な事項

(センター長)

第4条 高等教育推進センターに、センター長を置く。

- 2 センター長は、高等教育推進センターの業務を統括し、高等教育推進センターを代表する。
- 3 センター長は、学長が指名する副学長とし、理事長が任命する。
- 4 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、副学長の在任期間内とする。

(副センター長)

第5条 高等教育推進センターに、副センター長を置くことができる。

- 2 副センター長は、本学の専任教員のうちから、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。
- 3 副センター長は、センター長を補佐するとともに、センター長に事故があるとき、又はセンター長が欠けた場合は、センター長の職務を代理し、又は代行する。
- 4 副センター長の任期は、センター長の任期満了とともに終了する。ただし、再任を妨げない。

(センター員)

第6条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、センター員を置くことができる。

- 2 センター員は、学内外の専門的な知識を有する者とし、センター長の推薦を経て、学長が指名し、理事長が任命する。

(高等教育推進委員会)

第7条 高等教育推進センターに、高等教育推進委員会（以下「推進委員会」という。）を置く。

- 2 推進委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) センター長、副センター長
- (2) 各学部から推薦された専任教員 各1名
- (3) 各研究科から推薦された専任教員 各1名
- (4) 教務部長
- (5) 教務部事務部長
- (6) 高等教育推進支援室長

- (7) センター員
- (8) 学長が推薦する本学専任教職員 若干名
- 3 前項第2号、第3号及び第8号に掲げる委員の任期は、2年とする。ただし、任期の途中で委員となった者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 4 委員は、再任することができる。

第8条 推進委員会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 第3条に掲げる事業に関する重要事項
 - (2) 学長から諮問された事項
 - (3) その他高等教育推進センターに関する重要事項
- 2 推進委員会はセンター長が招集し、その議長となる。
 - 3 推進委員会は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会することができない。
 - 4 推進委員会の議決に当たっては、出席委員の過半数で決し、可否同数の場合は、センター長が決する。
 - 5 推進委員会は、必要に応じ、委員以外の者（学外者を含む。）を推進委員会に出席させ、その意見を求めることができる。

(部会)

第9条 高等教育推進センターに、第3条に掲げる事業を推進するために、部会を置くことができる。

- 2 部会の部会長は、推進委員のうちから推進委員会の議を経てセンター長が指名する。
- 3 部会の構成員は、推進委員のうちから部会長の意見を聴いてセンター長が指名する。
- 4 センター長が部会長と協議し、必要に応じ、推進委員以外の者を部会に加えることができる。
- 5 その他部会に必要な事項は、別に定める。

(学生FDチーム)

第10条 センター長のもとに、学生FDチームを置くことができる。

- 2 学生FDチームは、センター長のもとで、FD活動を行う。
- 3 学生FDチームは、本学の学部又は研究科に在籍する学生で、FD活動への参加を希望する者のうちから、センター長が任命する。

(細則)

第11条 この規程の実施について必要な事項は、推進委員会の意見を聴いて学長が定める。

(事務の所管)

第12条 高等教育推進センターの事務は、高等教育推進支援室の所管とする。

(改正)

第13条 この規程の改正は、学長が推進委員会及び各学部教授会の意見を聴いて行う。

附 則

- 1 この規程は、平成20年12月1日から施行する。
- 2 この規程施行の際、改正後の第6条第2項第2号、第3号、第4号及び第6号の委員は、現に「東洋大学FD委員会規程」により選出された委員をもって充てる。ただし、任期は、平成21年3月31日までとする。
- 3 東洋大学FD委員会規程（平成19年規程第8号）は、廃止する。

附 則（平成27年規程第72号）

この規程は、平成27年4月20日から施行する。

附 則（平成29年規程第126号）

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則（平成30年規程第93号）

この規程は、平成30年4月1日から施行する。